

ペルーの柑橘類事情(マンダリン、タンジェリン)

米国農務省GAINレポート 2024年12月18日

これは米国農務省海外農業局のリマ事務所(ペルー)が作成した「柑橘類年次報告書」を訳したものであり、米国政府の公式見解及びデータとは異なる場合があります。

概要

ペルーの2024/25年度(2025年4月～2026年3月)のマンダリン/タンジェリンの生産量と輸出量は、それぞれ2%及び4%増加し、生産量は57万トン、輸出量は22万5千トンと予測される。ラニーニャ現象の影響により気温が平均を下回り、生産性が向上する。2024/25年度の生鮮マンダリン/タンジェリンの国内消費量は、前年比1%増の32万トンと予測される。米国は、引き続きペルーの最大の輸出相手国である可能性が高い。

表1 ペルーのマンダリン/タンジェリンの生産需給統計

ペルー	推計値	推計値	予測値
表示年	2022	2023	2024
分割表示(販売年度)	2022/2023	2023/2024	2024/2025
販売年度の始まり	2023年4月	2024年4月	2025年4月
栽培面積(ヘクタール)	23,000	23,000	23,000
収穫面積(ヘクタール)	23,000	23,000	23,000
結果樹本数(千本)	9,200	9,200	9,200
未結果樹本数(千本)	0	0	0
果樹本数合計(千本)	9,200	9,200	9,200
生産量(千トン)	550	560	570
輸入量(千トン)	0	0	0
総供給量(千トン)	550	560	570
輸出量(千トン)	207	216	225
生鮮国内消費量(千トン)	313	314	315
加工仕向量(千トン)	30	30	30
総仕向量(千トン)	550	560	570

*注: ペルーの販売年度と米国の販売年度の間には1年のずれがある。例えば、ペルーの2025/26販売年度は米国の2024/25販売年度に相当する。データの継続性を確保するため、ペルーの2025/26販売年度は、このレポート全体を通して2024/25年度と記述する。

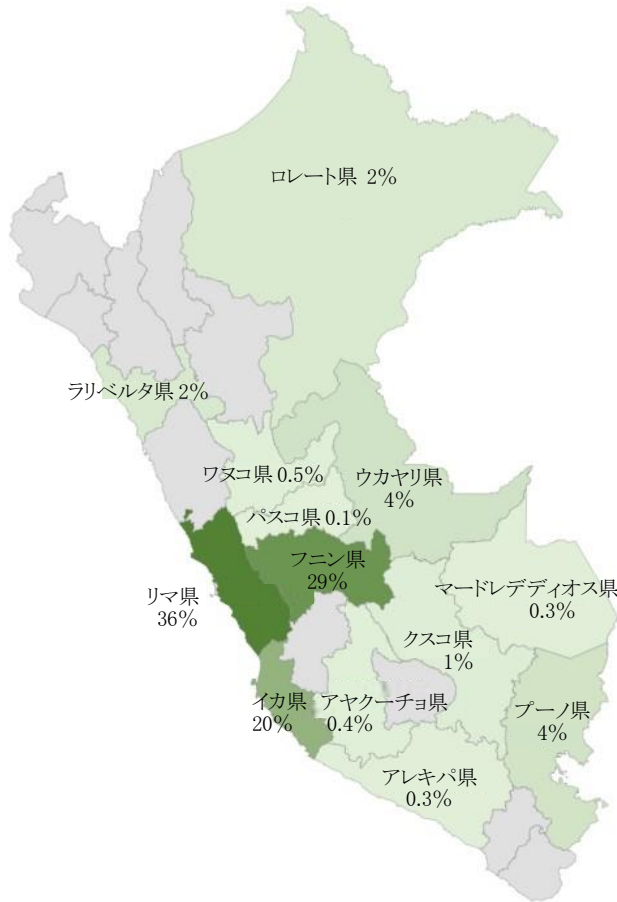
生産

2024/25販売年度(年度)(2025年4月～2026年3月)のマンダリン/タンジェリンの生産量は、前年比2%増の57万トンと予測される。ラニーニャ現象により、2024年12月まで涼しい天候条件が続き、2025年3月まで良好な生育条件が促進される。最低気温が華氏50度(摂氏10度)以下の涼しい天候は開花に良い影響を与え、最終的には3月の収量が増加する。悪天候の影響がなければ、生産量は増加すると予想される。

通常、ペルーの夏(2024年12月～2025年3月)は雨季であるが、沿岸地域(マンダリン/タンジェリンの主要産地)の降雨量は少ないと予想される。マンダリン/タンジェリンの生産量は増加傾向が続くと見られる。

公式データによると、マンダリン/タンジェリンの生産は主に13県(25県のうち)で行なわれている。沿岸地域は、亜熱帯気候と水利用の可能性(灌漑)により、総生産量の60%を占めている。ペルーの主なマンダリン/タンジェリン生産県はリマ(総生産量の36%を占める)、フニン(29%)及びイカ(20%)の各県である。

図1 ペルーのマンダリン/タンジェリン産地



ペルーではマンダリン/タンジェリンの生産が盛んで、世界市場に追いついて行くために新しいロイヤルティ品種を振興しようとしている。過去8年間で、マンダリン/タンジェリンの早生品種は、収益性と需要のより高いアボカド及びブドウ等の作物に置き換えられた。

ペルーのアマゾン盆地と高地での生産は主に国内市場向けであり、リマ県とイカ県の川の流域での生産は輸出志向である。リマ、イカ両県での生産は、砂漠的な条件(低い病虫害リスク、日較差の大きい気温)に加えて、主要港であるカヤオ港(リマ県)またはピスコ港(イカ県)へのアクセスの近さの恩恵を受けている。

出典: PROCITRUSのデータに基づき当事務所が作成

ペルーの品種は次のとおり。

ウンシュウミカン (Citrus unshiu): 三保早生、クラウゼリーナ、興津、尾張、プリモゾール

クレメンタイン (Citrus reticulata): クレメンタイン及びクレメヌール

交雑種: フォルチューナ、カラ、ピクシー、ノヴァ

Citrus reticulata と Citrus paradise の交雑種のタンジェリン: マーコット、オルタニーク、タンゴ

その他: ダンシー及びナドルコット。マルバセオ及びリオデオロもペルーで長い歴史があり、人気が高い。

図2 イカ県のマンダリン農園(2024年10月上旬撮影)



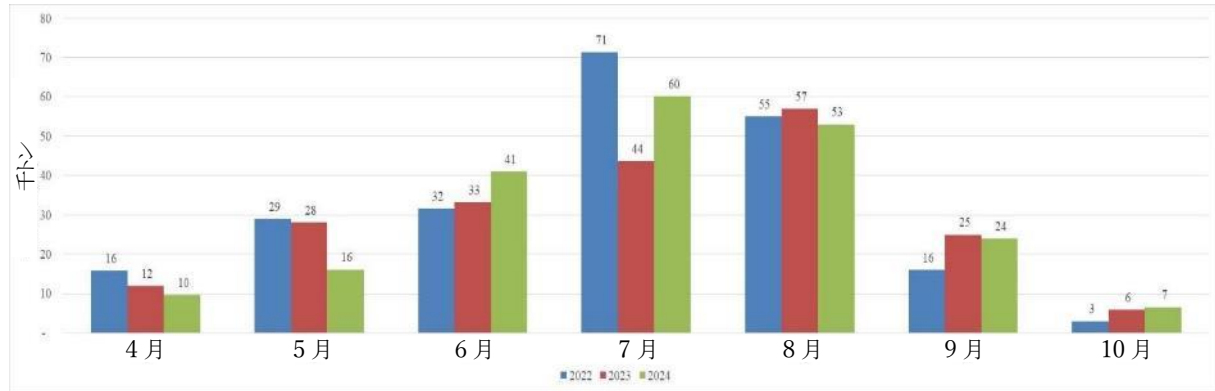
出典: 当事務所

輸出市場は、マーコット、タンゴ、プリモゾール、クレメンタイン、オッリ等の皮を剥くのが容易な品種や種無し品種が大部分を占めている。ウンシュウミカン、プリモゾール、クレメンタインは早生の品種と見なされ、マーコット、タンゴ、オッリはそれより遅い時期に収穫される。ウンシュウミカンは国内市場向けであり、プリモゾールとクレメンタインは輸出されている。

2024/25年度の収穫面積は、前年と同水準の2万3千ヘクタールと予測される。業界関係者によると、マンダリンの栽培面積は、投資の不足、不透明な政治的見通し及び利益率の低さにより、前年と変わっていない。

ペルーでは年間を通じてマンダリン/タンジェリンが出荷されているが、主な収穫期は4月から10月までで、最盛期は6月から8月までである。公式データによると、タンジェリンの栽培面積は4,500ヘクタールと推定され、マンダリン及びその他の交雑種は1万8,500ヘクタールを占めている。タンジェリン(前回の半期報告書では「タンジェロ」)は、ペルーのマンダリン/タンジェリンの総栽培面積の15%を占めている。クレメンティーナ、ダブルマーコット、ウンシュウミカンはペルーで最も人気のある品種である。

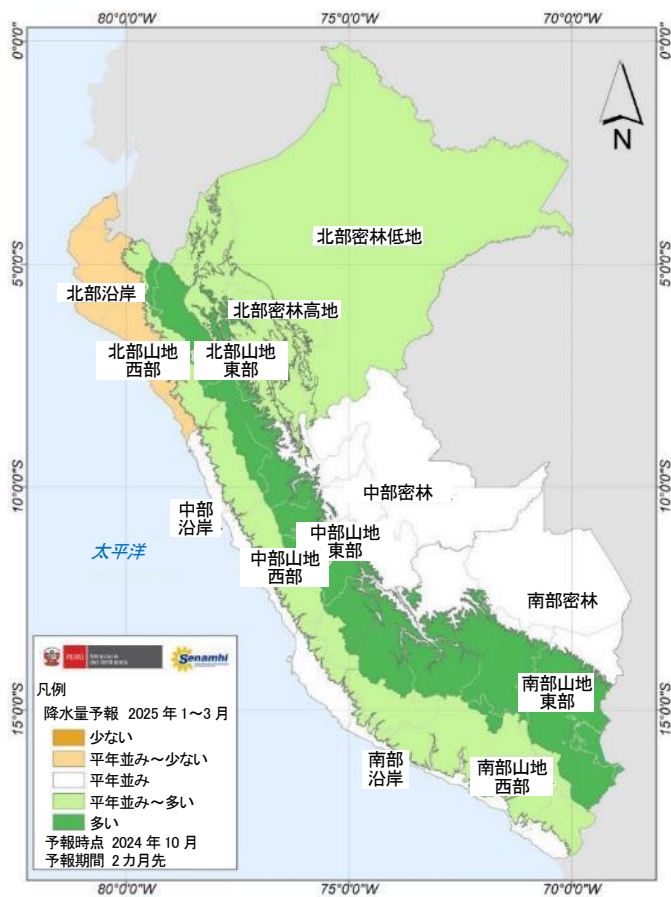
図3 ペルーの月別マンダリン/タンジェリン輸出量



出典: ペルー税関(SUNAT)

マンダリンは、地代と農場の運営費を別にして、年間6千〜7千ドルの投資を必要とする。これは、小規模生産者にとっては大きな財政支出である。公式データによると、ペルーには平均3ヘクタールで、主として国内市場にとどまっている小規模生産者が3千以上いる。収量は1ヘクタール当たり12〜20トンの範囲である。

図4 降雨予報 2025年1月〜3月



ペルー国立気象水文局 (SENAMHI) は、2025年1月から3月までの季節降水量が平均を下回ると予報している(図4)。ペルーの北部沿岸地域では降雨量が少ないと予想され(図ではベージュ色)、高地では平均以上の降雨が予想されている。白で表示されている地域は平均的な降水量を表している。

SENAMHIの2025年1月から3月までの季節予報によると、ペルーの沿岸地域では平均以下の気温が見込まれる。アンデス地域とアマゾン地域では、気温が平年並みまたは平年を上回ると予想されている。高地では、冬季にかけて霜の頻度と強度が増すものと予想されている。主に影響を受ける地域は、イカ、アンカシュ、ラリベルタ、ランバイエケ及びリマの各県である。この予報は、3月中旬に始まる秋の期間に(産地では)通常の範囲内で気温が下がることを示しており、柑橘類の生産に恩恵をもたらす。

出典: [SENAMHI](https://www.senamhi.gob.pe/)

消費

当事務所は、2024/25年度の生鮮マンダリン/タンジェリンの国内消費量を32万トンと予測する。

ペルーでは、マンダリンは昼食の弁当や間食として好まれている。ペルーの年間1人当たりのマンダリン/タンジェリン消費量は11kgと推定される。マンダリンジュース、ジャム、エッセンシャルオイル、ヨーグルト、粉末及びアルコール飲料は、消費を促進する画期的な手法として、スーパーマーケットやコンビニエンスストアで人気の商品となった。4オンス(約113グラム)容器入りの果汁漬けカットマンダリンの輸出量は、2017年の2千トンから2023年には1万2千トンと年平均34%で増加し、2024年1月から8月にかけては14%の増加を示した。

ウンシュウミカンとタンジェリンは、国内市場に年間を通じて供給されている。他のすべての品種には季節性がある。2023暦年の国内市場の価格は、平均で前年比20%高かった(表2)。リオデオロ品種は国内市場で最も価格が高く、ウンシュウミカンとタンゴがそれに続いた。

表2 マンダリン/タンジェリンの平均価格 2024年1月～10月(米ドル/kg)

クレメンタイン	コリ	マルバセア	マーコット	ピクシー	プリモソーレ	リオデオロ	ウンシュウ	タンジェリン	タンゴ
0.19	0.62	0.21	0.66	0.22	0.79	0.22	0.78	0.09	1.49

出典: ペルー農業省価格システム

(訳注: 表2は2024年のデータであり、本文中の2023年の記述と一致しません。)

図5 スーパーマーケットでのマンダリンの販売の様子(2024年12月撮影)

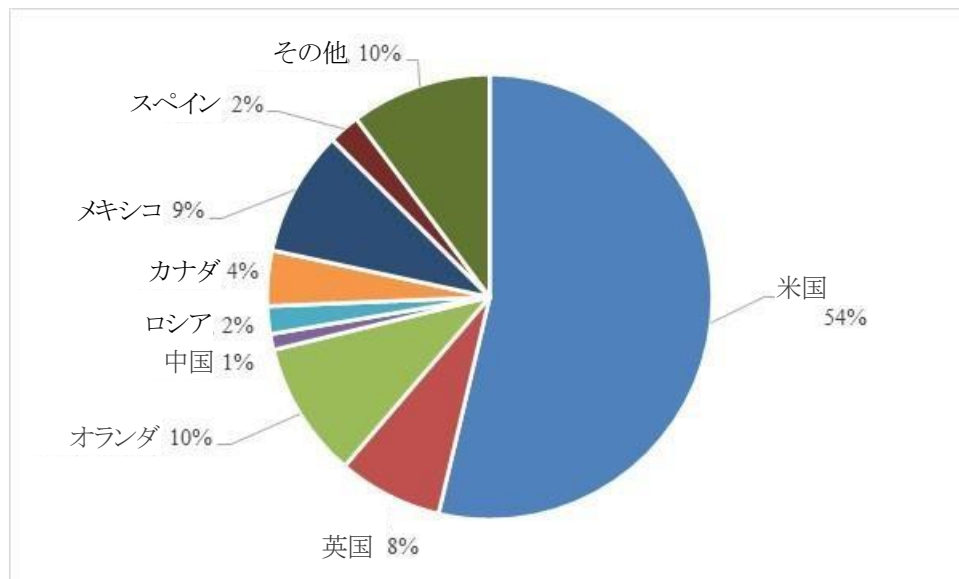


出典: 当事務所

貿易

当事務所は、ペルーの2024/25年度のマンダリン/タンジェリン輸出量が22万5千トンに増加するものと予測する。2024年4月から10月までのペルーの生鮮マンダリン/タンジェリンの主な輸出先は、米国(54%)、オランダ(10%)、英国(8%)であった。ペルーの輸出先は世界の36市場に及んだ。

図6 ペルーの輸出先国別マンダリン輸出(2023/24年度)

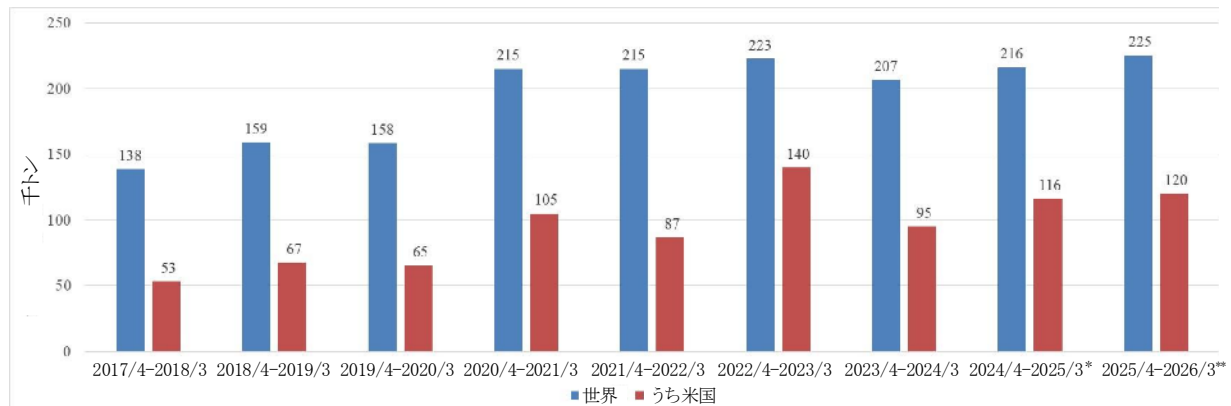


出典: ペルー税関(SUNAT)

2023/24年度の生鮮輸出量は前年比4%増で、20万7千トンから21万6千トンに増加した。2017/18年度のペルーの輸出量は13万8千トン(図7)で、その後一貫した成長を見せ、ほぼ倍増した。

米国向けの輸出は、ここ数年一貫して増加している。中でも2023/24年度には、9万5千トンから11万6千トンに22%回復した。また、米国への輸出は過去7年間、年率12%の成長を記録している。これに関連して、オランダはペルー産マンダリン/タンジェリンの2番目に大きな市場である。

図7 ペルーのマンダリン/タンジェリン輸出量(千トン)



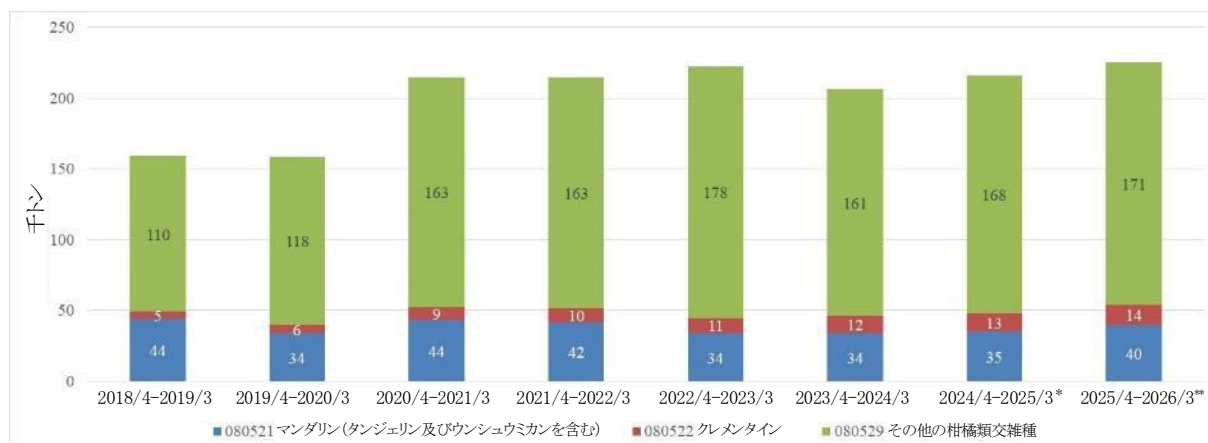
データの出典: Trade Data Monitor

*: 推計値

** : 予測値

ペルーの2024/25年度のマンダリン/タンジェリン総輸出量は、早生品種と晩生品種の好調な業績により回復すると予想される。交雑種は通常、総輸出量の77%を占める。

図8 ペルーのマンダリン/タンジェリン輸出量 HSコード別世界計(千トン)



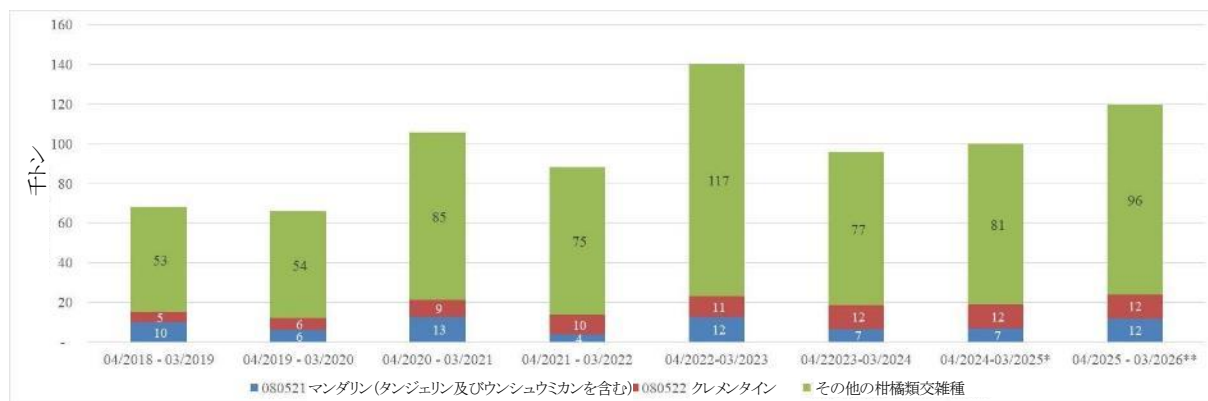
データの出典: Trade Data Monitor

*: 推計値

** : 予測値

2023/24年度の「その他の柑橘類交雑種」の各国の平均輸入価格は米国1,196ドル/トン、オランダ1,170ドル/トン、メキシコ1,475ドル/トンで、これは2022/23年度と比較して全体的に価格が高いことを反映している。2023年4月から2024年3月までの平均輸出価格は、前年度の1,073ドル/トンに対し、1,175ドル/トンであった。

図9 ペルーの米国向けマンダリン/タンジェリン輸出量 HSコード別(千トン)



データの出典: Trade Data Monitor

*: 推計値

** : 予測値

クレメンタインの輸出量は2018/19年度から4倍に増加し、主に米国市場向けである。当事務所は、ペルーのクレメンタイン輸出量は今後数年間、堅調な成長を維持すると予想する。2024/25年度の米国向けのマンダリン/タンジェリン輸出量は11万1千トンに増加すると予測される。

ペルーの輸出向けマンダリン/タンジェリン生産は、大部分が50ヘクタール以上の産業規模の農場で行われている。それらの農場では最先端の点滴灌漑システムを使用し、生産量を最大化するため正確な量の水と栄養分を供給している。これらの農場の収量は平均70~90トン/ヘクタールである。品種は多収で品質の高いものが選択されている。

政策

ペルーのマンダリン/タンジェリンの輸出は、米国、EU、中国等との22の自由貿易協定の恩恵を受けている。2009年2月1日に発効した米ペルー貿易促進協定(PTPA)は、ペルー産マンダリン/タンジェリンに対し米国への無税のアクセスを提供している。

ペルー政府は、港湾開発を経済発展の戦略的優先事項と考えている。最近開港したチャンカイ港(リマの北60km)はメガポートであり、ペルーの当局者らによると、南米とアジア(主に中国)との間の貿易を促進するために革命的であると見なされている。中国の国有企業であるコスコ SHIPPING 社(Cosco、中運海運)が建設・運営するこの港は、南米の貿易力学を変えようとしている。当局者らは、この港は最先端であって、中国やアジアの他の港への輸送時間を大幅に短縮することを約束しており、操業開始の1年目に農産物や工業製品を中心に全輸出品の25%を扱うと主張している。しかし、同港の完全運用までのタイムラインと有効性は、ビジネスリーダーや物流の専門家から疑問視されている。

さらに、カヤオ地域(リマ県)の二つの港が改修され、イカ県のサンフアンデマルコナ鉱石港の操業については最近、中国企業に30年間の運営権が与えられた。ペルーはこれらの投資により、ブラジルとアルゼンチンからの輸出の地域ハブとしての役割を果たし、南米における、またアジア市場との、戦略的及びビジネス上のつながりを強化することを目指している。

ペルー政府は、開発と繁栄の戦略軸として農産物輸出を支援している。PROMPERU(ペルーの輸出促進機関)とその海外事務所は、ペルーの代表的輸出農産物の一つであると認識されているマンダリン/タンジェリンを積極的に売り込んでいる。近年、ペルーは果実と野菜のトップクラスの生産国として世界的なブランドを構築することに成功し、国際的な食品見本市や展示会で強い存在感を示している。

ペルー政府と産業界は、業界を前向きにし、社会的対立を減らす手段として、小規模農家を農産物輸出チェーンに組み入れることに取り組んでいる。また、政府は生産的農村農業開発プログラム(AGRORURAL)を通じて、生鮮品の代替として、マンダリンを果汁、粉末、乾燥スナックに加工することを奨励している。

2000年から2020年まで、ペルーの農産物輸出業者は農業振興法の恩恵を受けており、この分野の多くの関係者は、これがペルーの農産物輸出の成功に寄与したと考えている。この法律は農産物の輸出に対する税金を軽減し、投資と正規雇用を促進した。2020年に法律が改正され、ペルーの柑橘類とその他の生鮮果実産業の関係者らによると、税金と労働者への補償要件の複雑な役所仕事が発生した。業界関係者らは、この変更が生産者と労働者の両方に負担となり、非正規雇用を増やし、投資を減少させたと主張している。

PROCITRUSはペルーの柑橘類貿易団体であり、柑橘類輸出品全体の80%を代表している。同団体は1998年に設立され、研究、開発及び官民連携に向けた業界の公式な取り組みを主導している。

ペルー農業検疫局(SENASA)は、輸出用生鮮果実の監視と管理において主導的な役割を果たしている。SENASAは、登録された果樹園と加工場のリストを収穫期ごとに更新する。

登録果樹園: [マンダリン生産農場](https://senasa.gob.pe) (senasa.gob.pe)

登録梱包処理施設: [マンダリン梱包施設](https://senasa.gob.pe) (senasa.gob.pe)

マンダリン/タンジェリンの規格は、高度な品質要件と柑橘類業界の基準の統一を促進する2014年の技術基準(NTP 011.023 2014)で規定されている。

ペルー税関によると、2024年1月から10月までの間に、ペルーは21カ国にマンダリンを輸出した。ペルーのマンダリン全輸出量の56%は、カヤオ港(リマ県)のDPワールド社のターミナルから出荷された。そのほかカヤオ港APMターミナル(34%)、サンマルティン港総合ターミナル(イカ県パラカス町、7%)及びユーロアンディーノス港ターミナル(ピウラ県パイタ市)からも出荷された。